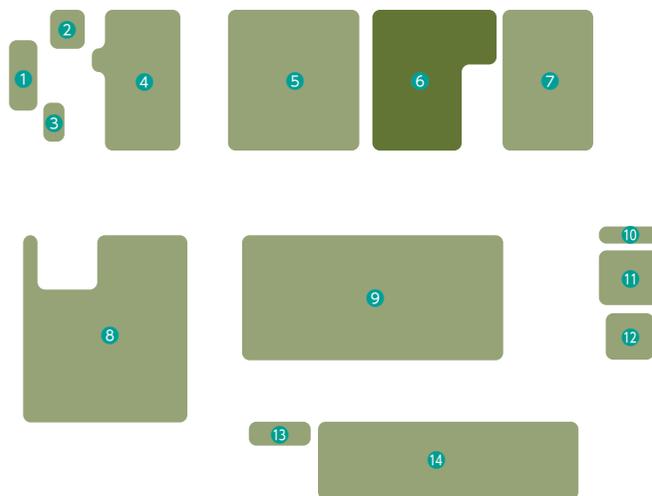


■ JAおとふけ 青果管理センター

青果管理センターでは、南瓜の他にも人参、長芋、玉葱、長葱、アスパラガスの撰別も行っております。

また、JAおとふけ管内ではブロッコリー、ほうれん草などの野菜も生産されています。それぞれの季節で旬な野菜を、新鮮な状態で皆さまへお届けしております。



●青果管理センター事務所

【青果管理センター施設配置図】

- | | | |
|--------------------------|----------------|--------------|
| ①オガ屑庫 | ⑦玉葱撰別施設 | ⑪青果管理センター事務所 |
| ②沈砂槽 | ⑧人参洗浄撰別予冷施設 | ⑫緑地帯 |
| ③物品庫 | ⑨貯蔵庫5／貯蔵庫6／機械室 | ⑬物品庫 |
| ④長芋洗浄撰別施設 | E庫／F庫／G庫／EFG前室 | ⑭食品加工センター |
| ⑤貯蔵庫3／A庫／B庫／C庫 | ⑩トラックスケール | ⑮コンテナ置き場 |
| ⑥貯蔵庫1／貯蔵庫2
D庫(南瓜撰別施設) | | |

音更町で育てる。
そのことに、意味がある。

JA OTOFUKE GUIDE IN FACILITIES

JAおとふけ施設ガイド 青果管理センター 南瓜編



●南瓜撰別施設



音更町農業協同組合

本所:北海道河東郡音更町大通5丁目1番地
TEL.0155-42-2131 FAX.0155-42-2727
<https://www.ja-otofuke.jp>



JAおとふけ
ホームページ



YouTube
公式チャンネル



わたしたちは北国の四季を収穫します

JAおとふけ

音更町農業協同組合

01 播種



4月の播種

播種作業は4月中旬から下旬に行い、ビニールハウス内で苗まで育てます。苗によって圃場での生育の良し悪しが左右されるので、丁寧に作業を行います。

02 定植



5月の定植

5月中旬から苗を畑へ定植します。

03 定植



被覆資材設置

定植7日前に地温上昇を図るため被覆資材を設置し、定植後も被覆資材を1か月程設置します。

04 整枝



整枝

つるを同じ方向へ向ける整枝(せいし)作業を行います。この作業によって収穫時の作業効率が上昇します。

05 生育管理



生育管理

除草剤は使用せず中耕除草を行い、ハチ箱を設置し受粉を促します。

06 収穫



収穫

収穫は8月上旬より熟した果実から順次行います。

07 風乾



風乾

収穫後、1週間から10日間風乾を行い、果実内水分を減少させ病気の侵入を防ぎます。

08 受入



受入

十分に風乾した南瓜を、JAで受入します。

09 受入



残留農薬検査

残留農薬検査用のサンプルを採取し、検査結果が出るまで貯蔵庫で保管します。検査結果で問題ないことが確認された後、選別を行います。

10 選別



選別

コンテナから南瓜をひとつひとつ、手作業で取り出します。

11 選別



磨き

南瓜に付着している土をブラシで落とし、磨きをかけしていきます。

12 選別



規格外品の選別

人の目で確認し、腐敗などの規格外品を取り除きます。

13 計量



規格撰別

1玉ずつ重量を自動計測した後、規格別に払出し、A品・B品に分けて封函します。

14 封函



封函

南瓜は封函後も通気性を保つため、ショートフラップという短いフタの段ボールを使用します。

15 出荷



出荷

トレーサビリティ用の番号を印字し、規格ごとにパレットへ積み付け、保管を行い、その後全国各地へ出荷します。

16 食卓



皆様の食卓へ

これからも引き続き皆様から選ばれる産地を目指し、安全・安心な青果物をお届けします。

■「Yes!Clean」「エコ・チャレンジ」ってなに？



「Yes!Clean」は北海道のJAや生産者組織で形成される「北海道クリーン農業推進協議会」の中で、「クリーン農業技術」を活用して生産された農産物が登録できる指標です。

「クリーン農業」とは、1991年に北海道が提唱した環境保全型農業のことで、堆肥などの有機物の施用による土づくりに努め、化成肥料や化学合成農薬の使用を最小限に留めるなど、農業の自然循環機能を維持・増進させ、環境との調和に配慮した安全・安心で品質の高いクリーンな農産物の安全生産を進める農業です。



「エコ・チャレンジ」とは、首都圏1都11県をエリアに事業展開しているパルシステムの独自基準です。その内容は特別栽培農産物基準と同等で「化成肥料50%減・農薬成分回数50%減・パルシステムが定める削減目標農薬の不使用を原則とする。青果物については除草剤・土壌くん蒸剤不使用」といった内容です。

JAおとふけの南瓜は、化成肥料と化学合成農薬の使用量を慣行レベルの50%減による栽培を行っており、環境保全と消費者の皆様が安心して「おとふけの南瓜」を召し上がれるよう努めています。

- ① 土作りの推進
- ② 化学肥料の低減
- ③ 化学合成農薬の低減
- ④ 自然環境の保全

環境に配慮した
持続的な農業の展開

安全・安心で高品質な
農産物の生産・提供



青果管理センター 南瓜撰別施設概要

- 名称
南瓜洗浄撰別装置
- 設備
・原料供給タンパー
・原料供給装置
・プラスチック洗浄機
・ロードセル
・規格別払出装置
・製函機
・封函機
- 建設
建物：平成3年
機械：平成20年(自己資金)
- 事業費
107,945千円
- 延床面積
728㎡

